

## こども達を糖尿病から守る歯科衛生士 ～ チェアサイドで必要な糖代謝異常の知識 ～



にしだわたる糖尿病内科（松山市）

院長 西田 互

### 略 歴

広島県広島市出身  
 1988年 愛媛大学医学部卒業  
 1993年 愛媛大学大学院医学系研究科修了（医学博士）  
 1994年 愛媛大学医学部・第二内科 助手  
 1997年 大阪大学大学院医学系研究科・神経生化学 助手  
 2002年 愛媛大学医学部附属病院・臨床検査医学（糖尿病内科）助手  
 2008年 愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学（糖尿病内科）特任講師  
 2012年 にしだわたる糖尿病内科 開院

### 著 書

西田互，原瀬忠広／こんなに歯科に身近な糖尿病，歯科衛生士，クインテッセンス出版，39（12）：57，2015  
 西田互ら／医科歯科社会連携による健口から健幸への道のり，日本歯科医師会雑誌，68（1）：35，2015  
 西田互／糖尿病合併症事典：歯周病（慢性歯周炎），糖尿病診療マスター，医学書院，12（3）：279，2014

歯科衛生士の皆様は、日頃実施されている歯周治療や定期メンテナンスの内科的意義について意識されたことはあるでしょうか？ 歯科的意義については、学校や職場で学ばれていると思います。しかし、内科的観点から捉えた歯周治療の意味については、恐らく教科書にもほとんど書かれていないことでしょう。

私は、内科医であり糖尿病専門医ですが、歯科における歯周治療が、歯周病はもとより、その人の将来をも大きく左右する力を持っている事例を、多くの症例を通じて経験してきました。本日の講演では、「糖尿病（糖代謝異常）と歯周病」という切り口から、数ある医療職の中で、歯科衛生士の方々が「こども達の未来の守り人」であることを、糖尿病専門医の立場からお伝えさせていただきます。

歯周病と糖尿病の関連性が着目されるようになった背景には、炎症というキーワードが存在します。歯周病は、細菌感染による慢性微少炎症がその本態ですし、糖尿病もまた、肝臓や筋肉などに入り込んだ脂肪細胞が脂質を貯め込み、局所的な慢性炎症を引き起こすことが、原因のひとつであると考えられています。歯周病と糖尿病で起きている慢性炎症は、炎症性サイトカインの分泌を通じて、インスリン抵抗性をもたらし、結果として血糖値を上昇させます。

「炎症を通じて歯周病と糖尿病がつながっている」という事実は、一般市民はもちろん、医科の間で

もそれほど認知されていないように感じます。私自身、7年前に歯科の先生方に出会うまでは、口腔内にほとんど興味はなく、口の中を診察した際に扁桃は見ても、歯や舌に関しては意識することがありませんでした。視れども見えずの状態にあった訳です。

しかし、「口腔は全身の窓である」ことを意識して診察するようになると、実に多くのことが見えて参りました。講演の前半では、私自身が経験した症例を通して、口腔感染症が命に関わるほどの重大な事態を招いたり、歯周治療がインスリンにも勝る劇的な効果をもたらし得ることをご紹介します。

講演後半においては、糖尿病の概念をより広げた糖代謝異常について、お話します。糖尿病は、今や成人の4～5人に1人が発症する国民病ですが、多くの人々は他人事で終わっているようです。しかし、同じ国、同じ時代、同じ社会に生きている限り、老いも若きも糖尿病の運命から逃れることはできません。たとえ今は糖尿病でなくとも、5年、10年の後には糖尿病の魔の手が迫ってくるかもしれませんし、その手は若者や子ども達に及びつつあります。たとえば、妊婦さんに関しては、今や8人に1人が妊娠糖尿病の可能性があると言われてますし、香川県が行った小学4年生対象の成人病検診では、1割以上の子ども達がメタボ成人に匹敵する高血糖状態にあることが明らかになっています。

かけがえのない次世代を守るためには、糖尿病だけに固執するのではなく、より大きな概念である糖代謝異常を理解し、未病の人々にアプローチする必要があります。しかし、誠に残念なことに私達医科の人間は、糖尿病の診断がついた患者さんにしか、介入することができません。一方で、歯科医院には未病の状態にある糖代謝異常の方々が、子ども達も含め、たくさんいらっしゃいます。

歯科医院における歯肉炎と歯周炎の治療、そして歯科ならではの「食事・捕食・咀嚼指導」は、将来やって来るであろう糖尿病発症の運命から、目の前の人々を救うことにつながります。子ども達の未来、ひいてはこの国の未来を守ることができる天職は、歯科衛生士をおいて他にはないでしょう。